

広報

かわい

NO. 512

平成13年4月10日



春を告げる だんごまき



〒948-0192 新潟県中魚沼郡川西町大字水口沢12番地 TEL 0257-68-3111 FAX 0257-68-3828
発行・編集 川西町役場総務課 E-Mail: kawanisi@mail.tiala.or.jp (毎月10日発行)

人口の動き

— 4月1日現在 —

男	4,101 (-11)
女	4,188 (-17)
計	8,289 (-28)
世帯数	2,290 (-6)
() は前月比較	

議会

報告

三月一日から始まった第一回川西町議会定例会は、二十二日全日程を終了しました。

二日、町長の施政方針と新年度予算の提案説明があり、以後、各常任委員会の調査を経て、二十二日、平成十三年度川西町一般会計

予算と六特別会計、水道事業会計予算が成立しました。

次に、川西町仙田体験交流館施設の設置及び管理に関する条例は二件の新設条例と、五件の条例の一部改正を原案とおり可決。続いて平成十二年度川西町一般会計補正予算（第六号）を原案とおり可決しました。また、第五次川西町総合開発基本構想の変更を原案とおり可決。人権擁護委員候補者と

して、小林力さん（神社町・67歳）と滋野豊子さん（野口・61歳）を推薦しました。さらに、川西町教育委員会委員として金子幸作さん（岩瀬・75歳）を任命することに同意しました。続いて、抜本的な雇用対策、地域経済の充実を求める意見書を原案とおり可決しました。

田口町長の平成十三年度施政方針から、その概要を紹介します。

十三年度は、二十一世紀の扉が大きく開かれるとともに、わが川西町にとっては誕生四十五周年という記念すべき年でもあります。

このような巡り合わせの年に町長として町政を執行していく上、あらためてその重責を痛感するものであります。

現在の景気は、「自立的回復に向けて改善が続いている」とはいふものの、国内総生産（GDP）の六十割を占めるいわゆる個人消費は一向かず、卸売り物価も「やや弱含み」の三つし状態にあります。また、当町にとつては、米価の下落や久しく続いている地域商業の沈滞化も憂慮されるものであります。

今、困難な社会経済に直面し改めて思ふところがあります。一番大切なことは、一人に頼らず頑張る気概を持つことではないかと。これは、自分自身への戒めであり

ますが、町民の皆様へもお願いしたいことでもあります。私は一昨年町長に就任して以来、「住民主体のまちづくり」を基本姿勢として、地域最大の社会的資源である「農」をキーワードに、農業や農村社会、農村環境を活用したまちづくりの心掛けてきました。これら資源の長所を自分たちで磨くことにより、川西町がより住みやすくなることも个性的になり、愛着が増し、外に向かつて誇れるアピールできるまちになるのではないかと思っています。

現代社会においては、いろいろな問題が複雑に絡み合っており、行政課題として取り組んだとしても事業効果が上にくく、評価をいただけないものも少なくありません。しかしながら、困難な時代であるからこそ新しい時代にふさわしい、希望に満ちた施策の展開が求められていることも事実であり

ます。

このため、十三年度からの新規施策として、新世紀かわにし創造事業を立ち上げました。これは、二十一世紀のスター、に当り予算に特別枠を設け、時代を切り開く先進的な事業や重要な行政課題にチャレンジするものであります。財政状況は大変厳しいものがありますが、時代の潮流を捉え、さまざまな波及効果が生じる事業として「住民主体のまちづくり事業」、「環境対策事業」、「起業や地域の活性化を促す事業」、「新たな時代を担う人づくり事業」を重点として実行していきたいと考えております。財源は、まちおこし基金の一億円を基本に、国県補助や事務事業の見直しを進めるなかで、十三年度から三年間で一億五千万円を確保していきたいと考えております。なお、この新世紀かわにし創造事業を以下に述べるとき

は、「新世紀創造事業」と略させていただきます。

十三年度に取り組む主要な施策の概要について、総合開発計画で定めた区分ごとに説明いたします。

夢を育む人づくり

私は常々、「まちづくり」は「人づくり」であると考えております。現代のような変革の時代にあつてはなおのこと、豊かな個性と創造性を持ち、さまざまな可能性に果敢に挑戦していく「人」を育てて行くことが極めて重要となります。昔から知育、徳育、体育という言葉がありますが、現代においても「知、徳、体」の三つがバランスよく育まなければならないかもしれません。しかし、これは学校教育だけでなく、生涯学習においても大変重要なことであります。教育基本法の見直しの観点も、新たな時代の日本人を育成するため、伝統・文化、生涯学習、家庭教育などを重視するとしています。さて、新世紀創造事業として取り組む三つの人づくり事業についてご説明をいたします。最初に情報通信技術講習事業であります。これは、国が提唱しているIT（情報技術）普及国民運動に呼応するもので、インターネットの基礎技能講習を行うものであります。十年位前に米国に始ま



ったインターネットの急激な発展は、欧州諸国や東アジアなど、より広範な地域に拡大を続け、今までの工業文明と違った価値観や人間関係を持つ社会を生み出しています。そこにはグローバルに発展していく「知恵の社会」があり、二十一世紀の経済と文明の基盤になるといわれています。発展途上の社会には多くのビジネスチャンスがあることから、起業や地域の活性化を促す意味からも、多くの町民の皆様から講習会に参加していただきたいと願っています。次に緑の少年団育成事業であります。緑の少年団については、既に昭和五十九年から上野小学校で活動を展開しており、自然とのふれあいや緑化活動が果たす児童の健全育成については論をまたない

とあります。新年度から、町内全小学校で活動を展開いたします。新聞でも報道されていましたが、大変うれしいことがありました。上野小学校六年生で団員でもある水品貴絵さんは、社団法人国土緑化推進機構が募集した緑化運動の標語で、全国最高賞の特選を受賞しました。水品さんの作品は「森林は地球を守る宝物」というもので、もつと緑が増えてくれればいいなという願いを込めた作品だそうです。

続いて、まちづくり塾「川西結」

事業であります。これは、私の政策の基本であります。「住民主体のまちづくり」を学び、考え、実践する塾として、新潟大学農学部伊藤教授を塾長にお迎えし実施しているものであります。昨年五月から始まり六回の活動となりましたが、お蔭様で初年度から大きな成果が上りました。昨年暮には、川西町に循環型社会を形成していく一つの足がかりとなる、生ごみリサイクルの活動が始まったところでもあります。新年度においても、多くの皆様からご参加いただき、大いに議論風発していただきたいと願うものであります。

その他の主要な事業として、学校給食は実践的な教育活動の一環にあります。米飯給食の拡大と地元コシヒカリの使用を開始することにいたしました。いままでは、

学校給食会が納める統一米による米飯が週三回、パンが二回の給食でありましたが、新年度からは川西産コシヒカリが週四回、パン一回に切り替えて実施いたします。

健康で安心して暮らせる地域づくり

私は、川西町の福祉を語るとき、誇りにしているものがあります。それは、住民の皆様による層の厚い福祉ボランティア活動であります。高齢者福祉などの地域福祉を確立していく温かい心と実践は賞賛されるものであります。川西町民の民度の高さを大変ありがたく思うものであります。

さて、少子化対策であります。これまで保育料の軽減や乳幼児を対象とした医療費助成など、保護者の金銭的負担を和らげるべく、国県の基準を超えた支援を行ってきたところであります。

今回、新世紀創造事業として取り上げた子育て支援事業についても少子化対策の一環となるものであります。具体的には、子育てグループの活動補助と公民館家庭教育講座の充実を図るものであります。子育てグループについては、近所に子供が少なく、お母さん同士が気楽に子育ての悩みや不安を話し合える場がなくなってきた昨今の現実から、情報交換できる場を意図的に作ろうと、自主的に活

「あつたかホームたちばな」のオープンを喜ぶ関係者



動しているグループであります。

また、子育てを学ぶ家庭教育講座に改めて力を入れていきたいと考えています。先ほど申し上げました子育てグループの皆さんのご協力をいただきながら、幼児期の親子を対象としたすくすく教室の充実を図るとともに、児童・生徒の父親を対象とした父親講座などを学校と連携し実施いたします。

高齢者対策についてご説明いたします。

本年二月一日現在の六十五歳以上人口は二、二九〇人で、高齢化率は二七・五割、前年対比で〇・五ポイントの増となりました。高齢者が一層進んできました。高齢者の福祉については、十二年度に介護保険がスタートしたことにより、家族介護から社会全体で支え合うという仕組みができました。また、

この制度を補完していく介護保険自立認定者支援事業やコミュニティデイホーム事業などもあり、高齢者が受身となる福祉施策は一定のレベルにあると認識しています。今後は、寝たきりにならない健康づくり事業として、四年前から取り組んでいる水中運動教室をさらに展開しながら、いよいよ施設整備に向けた取り組みを開始いたします。十三年度は健康増進施設整備事業として基本調査に着手し、今後の財政状況の推移をにらみながら、十六年春のオープンを目標として設定いたしました。

働く喜びにあふれる産業づくり

三つの新世紀創造事業からご説明をいたします。

最初に、プレミアム商品券発行支援事業であります。近隣に大型店の進出が相次いだことから、地元購買率は低下の一途をたどっており、地域経済の沈滞化を招いております。この度町商工会では、

地元消費者に愛され魅力を感じてもらえる企画として、本年の年末商戦に向け、一、〇〇〇円の現金で一、二〇〇円分の買物ができる商品券の発行を計画いたしました。商業振興に関係が深い、賑わい空間整備事業の最初の施設である温泉施設の完成を祝うものでもあり、地元消費者と小売業者ともにメリ

ツトがある地域経済を活性化する事業として支援することといたしました。

次に、認定農業者、生産組織、加工支援事業であります。認定農業者や生産組織が、パソコンやその周辺機器を購入する場合に支援するものであります。これからの社会においては、ＩＴは大変有用で、ビジネスチャンスを作るものであると前段申し上げました。農業の生産活動においても同様でありまして、パソコンによって経営管理の近代化を図るばかりでなく、インターネットに接続することにより生産情報を得る一方、農産物の販売情報を発信することも可能なわけであります。やり方次第で、顧客の獲得や有利販売などのチャンスが広がることとなり、この支援制度も大いに活用していただきたいと思っております。

なお、この支援制度の創設にあたって、これまでの生産組織農業機械導入補助金については、廃止いたしました。

続いて、安心安全農産物生産支援事業であります。

「安心安全」という言葉は、防災や道路交通は元よりであります。が、環境、産業など、さまざまな場面でまちづくりのキーワードになってきています。ここでは、「食糧」という面から捉えて、健康に配慮し、環境負荷の少ない循

環境社会のサイクルの中に位置付けられる食糧生産システムへの取り組みを支援しようとするものであります。具体的には、米の有機栽培において、雑草を抑制するための深水管理を可能にする、成苗用の育苗プラントの整備に補助するものであります。

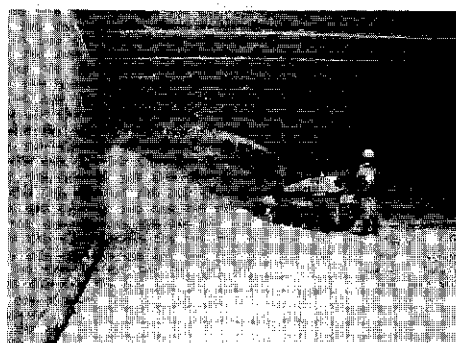
その他の主要な事業として、先ず、仙田地域総合整備事業をご説明申し上げます。

仙田体験交流館については、現在、鋭意工事の進捗を図っており、四月の完成を目指しています。なお、オープンイベントは、外構工事が完了し、販売体制も整ってくる七月十五日を予定しており、同日道の駅「瀬替えの郷せんだ」の供用も開始いたします。

公の施設としての体験交流館の管理は、仙田地域の農業振興、地域振興、交流促進という施設の設置目的に沿うべく、地元の人たちで組織した仙田地域交流施設管理組合に委託することといたしました。拠点と体制が整ったことを契機に、創意工夫しながら、より自主的、自立的な活動を展開されることを期待するものであります。

また、農産物の販売体制としては、営利団体の仙田体験交流館利用者協議会を組織し対応することとしました。この利用者協議会は、仙田地区の人に限らず参加できますので、農林産物を買って

資源利活用施設(雪室)への投雪作業。常温で5℃で野菜などが保存されることとなります。



みたいと思っています方は、広くご参加願いたいと思います。

なお、十三年度のハード事業としては、つり橋工事と、対岸の遊歩道などを予定しているものであります。

次に、商業タウンマネージメント計画策定補助であります。これは、昨年三月に町商工会が策定した「川西町タウンマネージメント構想」に基づくもので、株式会社まちづくり川西が実施計画を策定するものであります。内容は、賑わい空間整備事業の商業エリア部分を対象に、店舗の立地とともに、雁木や駐車場などの共同利用施設の整備を盛り込むものであります。共同利用施設の整備にあたって国県の高率補助を得るためには必須の計画で、財源対策上なくてはならないものであります。

快適で美しい 環境づくり

一つは、生ごみリサイクル試験委託事業であります。先ほど、まちづくり塾「川西結」のご説明のなかで若干申し上げましたが、塾生を中心として組織された有志の会の皆様が活動を展開しています。また、生ごみは、町全体の十割を超える二百三十世帯から提供していただいております。

環境問題について私は、地球規模の大きな問題でありながら、それへの取り組みは地球に住む私達個々の日常生活のあり方にかかるとも思います。循環型社会を形成し地球への負荷を少なくしていく活動は、地球の痛みを自分のこととして行動しなければならぬとも思っているところでもあります。このようなことから、この活動にかかわっている多くの住民の皆様を敬服するものであります。

もう一方の新世紀創造事業ですが、花と緑の千年物語事業として三つの取り組みを行います。

一つは、千年の森プロジェクト事業として、体験交流館周辺に、住民活動を基本にした一千年続くような美しい森づくりを始めるものであります。

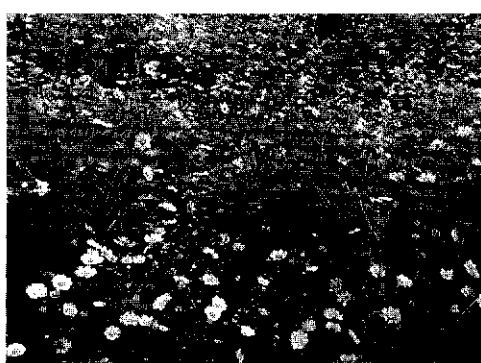
二つ目は、花のアート事業であります。花の好きな人たちが個々の花づくりから、花づくりをアート

のレベルまで高めて、まちづくりに生かしたいとするものであります。

三つ目は、花のじゅうたん作戦であります。昨秋に、町道東山新町新田線沿いの田んぼに、見事なコスモス畑が出現したことは皆様の記憶に新しいことと思います。十三年度は、このような取り組みをもっともつと応援したいと考えております。

このほかの主な事業であります。道路交通対策として、観光拠点へのアクセスを改善する元町中子環状線など改良六路線、舗装一路線、維持補修六路線を予定しております。

また、地方分権一括法により、従来国有財産として管理されていた里道や水路、通称で赤線、青線とも呼ばれていますが、これらが



幹線沿いに植えられたコスモス。転作田を活用したものです。

十年度末までに、町に対し無償譲渡されることになりました。相当な件数になると思いますが、順次申請事務を進めてまいります。

楽しさ広がる ふるさとづくり

ここでも二つの創造事業を計画いたしました。

最初に、まちづくり活動支援事業であります。この事業は、住民の皆様が主体的に考え実践していく、自立的なまちづくりを包括的に支援する制度として従来からあったものであります。住民の皆様が汗を流しながら、自らの責任で創意工夫して行う精神性の高いまちづくりは、大いに応援したいと思っております。十三年度においては、集落活性化計画策定事業と無形文化財保存活動事業、そして先ほど申し上げました花のじゅうたん作戦について特に厚く支援したいと考えております。

続いて、二十一世紀、町誕生四十五周年記念事業であります。これは三つの取り組みで構成されていますが、一つ目は、越後妻有天神ばやしワールド事業を行います。天神ばやしは妻有地方の最もポピュラーな民謡で、おめでたい歌として謡い継がれています。各地域の天神ばやしの自慢大会を、「地域文化を新世紀につなげる」という趣旨で開催するものであり



ます。

二つ目は、NHKラジオ公開番組「ひるの散歩道」の誘致であります。四月二十七日に総合体育館を会場にして収録の予定でありまして、川西町を全国に向けて情報発信するものであります。有名歌手も来ると思いますので、多くの町民の皆様からお出でいただき、春のひとときをお楽しみいただきたいと思っております。

三つ目は、町のシンボルマークづくりであります。川西町にはナカゴグリーンパークなど多くの観光施設や公共施設がありますが、統一的な表示がされていません。十三年度に体験交流館や道の駅、また温泉施設ができるのを機会に、親しみのあるシンボルマークを作り、統一感のあるまちづくりを進めたいと思っております。

主要な事業として、賑わい空間整備事業についてご説明したいと思っております。整備構想では、賑わい空間を「市」とし、単に経済活動の場だけでなく、人と人との出会いの場、文化的情報を交換する場、娯楽の場にしたとしていきます。基幹的施設としては、温泉施設、健康プール施設、生涯学習施設、商業施設などを整備するものであります。

温泉施設については、開発エリア内の地権者の皆様から深いご理解とご協力をいただき昨年十一月



今年行われたかわにし雪まつり前夜祭では、天神ばやし保存会による「天神ばやし」が披露された

に工事着手することができました。施設は本年十月下旬に完成予定で、十一月二十三日にオープンしたいと準備を進めております。なお、現手温泉については、温泉施設への送湯管工事などがあるため、九月末日をもって閉鎖いたします。また、温泉施設の管理運営については、株式会社まちづくり川西に委託したいと考えております。

この他の公共施設については、財政状況を勘案しながら、適宜整備を進めて行きたいと思っております。

商業施設エリアについては、まだ用地確保に難しい課題を抱えておりますが、交渉に当たっては誠実に努力を重ねていきたいと考えております。また、商業者の出店については偏に関係商業者の責任と決断に係るものであります。

タウンマネージメント計画策定など、出店商業者、町商工会、株式会社まちづくり川西ともども、まだいくつもの山を越えなければなりませんので、しっかりと手を携えながら歩んで行きたいと考えております。

開かれた自主的 行政の推進

市町村合併の問題に対する私の現在の考え方を申し上げます。

国が進める合併は、日常生活圏の拡大、少子高齢化の進行、住民ニーズの多様化など社会情勢の変化がある中、地方分権により市町村は自立的で安定的な行財政の運営が求められていることや国、地方の財政悪化を背景にしています。

また、県は二月中旬に、新潟県市町村合併促進要綱を策定しました。県は、合併特例法の期限である十六年度末までに、県内全ての地域で、より具体的な合併議論を経て自主的な合併が促進されるよう積極的な支援を行うというもので、市町村数百十一を二十一にするという合併パターンも示しています。その中で当圏域は「十日町市、川西町、津南町、中里村」という組み合わせと、それに「松代町、松之山町」を加えた組み合わせの、二つが例示されています。合併促進のための財政的支援策も、合併

特例法に基づくものに乗せして県単独の支援を強化するとしています。

以上のような情勢であります。私の合併に対する基本的な考え方は「人」にあります。前段、「まちづくり」は「人づくり」であると述べましたが、その目的は「そこに住む人の幸せ」にあります。川西町に暮らして良かった、だからからも思っていたことが究極の目標であります。

確かに、合併すれば人件費を中心に行政コストが下がることでしよう。しかしながら、経済合理主義一辺倒になった、現代の世の中の暮らしはいかがでしょうか。「人」や「気持」が置き去りにさ

れ、特に青少年にさまざまな形で影響が出ていることは新聞やテレビなどでご承知のことと思います。

私は、合併だけを前提にした議論は、判断の材料が狭まり将来に禍根を残す恐れがあると考えています。行政コストを勘案しながらも、そこに住む人々と行政がお互いに分かり合えるヒューマンな町というのは、人口一万人前後が最適だと思います。合併については現在ゼロの立場でございますが、当面、広域行政のあり方など関係市町村と連携を取るとともに、住民の皆様が議論を深め適切な判断ができるような情報提供をするべく、庁内の体制を整えていきたいと思っております。

町長と気楽に話し合ってみませんか！

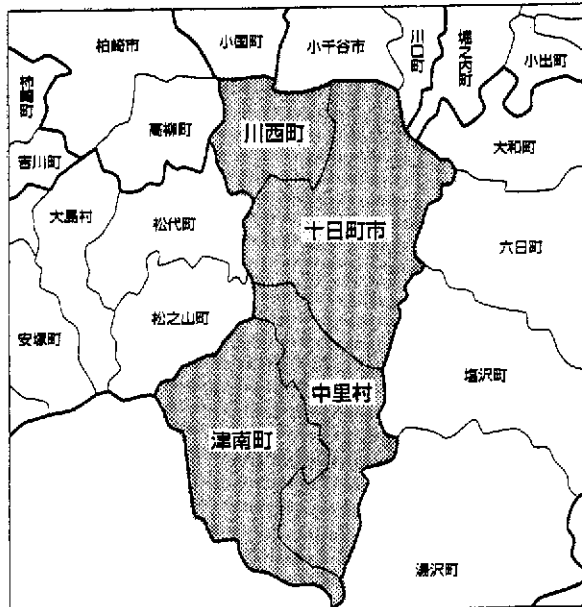
町では、町民の皆さんのご意見やご要望などをお聞きし、今後の町づくりを生かしたいということで、ご要請のある町内に町長と職員が出向いて実施している「移動役場」や、はがきによる「町づくりについての提言・意見」を広報紙に折り込むなどして、自由なご意見や発想をお聞きしているところです。

移動役場やはがきによる提言・意見は引き続き実施いたしますが、今年度は、5、6人の小グループでもご要請があれば町長が出向き、気楽に話し合いができる『ぐるまざ集会』を設けることになりました。日時や会場などは要請をされるグループに一任します。しかし、質問や意見などの内容によっては即答できないものや、専門分野にわたる場合なども考えられますので、申し込まれる際には、あらかじめ内容を簡単にお知らせください。

ご希望がある場合は、役場総務課（☎68—31111（内線301・305））にお申し込みください。

県が合併パターンを公表

十日町圏域は
2パターン



4市町村を構成市町村とするパターン1

町では、これまで集落環境などの社会資本の整備はもとより、福祉、医療、消防、一般廃棄物処理など、住民に密着したサービスの提供を行ってきました。しかし、住民の日常生活圏の拡大、少子・高齢化の進行や多様化する住民ニーズなど、市町村を取り巻く環境は急激に変化しており、厳しい財政事情の中で市町村が取り組まなければならない課題は、以前より増大しています。こうしたなかで、国では平成十一年七月に市町村の合併の特例に関する法律改正を含む「地方分権一括法」を成立させ、同年八月に「市町村の合併の推進についての指針」を示し、都道府県に対して、市町村の合併に向けた取り組みを支援するよう要請してきました。

これを受けて新潟県では、市町村や住民が検討する際の参考や目安として、合併パターンなどを内容とする「新潟県市町村合併促進要綱」を策定し、二月十三日付けで正式に公表しました。

なぜ今、市町村合併なのか

地方分権推進の立場で

従来、「中央省庁主導の縦割りの画一的行政システム」を「住民主導の個性的で総合的な行政システム」に改めるため、省庁再編や地方分権の推進が行われており、住民に最も身近な自治体である市町村にも、自ら政策を立案し、安定的に行政サービスを行っていくなど自立していくことが求められて

市町村を取り巻く

社会情勢の変化に
対応するために

■住民の日常生活圏の拡大

道路や新幹線、トンネルなどの交通基盤が整備され、自家用自動車の普及など交通手段は大きく発達しました。情報通信手段も飛躍的に発展し、加えて経済活動の活性化に伴って、通勤・通学や買い物、医療など住民の日常生活の行動範囲は、現在の市町村の区域を越えてますます拡大しています。また、郊外型の店舗などを中心とした新たな市街地が形成されてきており、より広域的な観点から効率的で魅力的なまちづくりが求められています。

■人口の減少及び

少子・高齢化の進行

少子・高齢化が急速に進行しており、それに伴う人口の減少も予測されています。少子・高齢化や人口減少は、地域の担い手の現象につながり、地域全体の活力が低下するとともに、福祉などの財政需要が増大する一方で税収が減るなど、市町村財政の悪化を招くことが見込まれます。これらは、小規模の財政力の弱い市町村にとっては、団体維持にかかわる深刻な

■住民ニーズの多様化

行政に対する住民ニーズは、社会経済情勢や個人のライフスタイルの変化などを受け多様化しています。また、介護保険導入に伴う高齢者福祉対策の充実や、ダイオキシンの発生を抑えるための一般廃棄物処理対策の充実、長寿社会に対応した生涯学習の推進、情報化社会への対応など、新たな行政課題に応じて市町村が取り組むべき仕事は、質・量ともに拡大しています。

これらの多様化・高度化する行政需要に適切に対処するため、市町村には行政基盤の強化や専門職の確保、企画立案能力を備えた職員の養成などが求められています。

財政上の問題から

平成十三年度末の国・地方を合わせた債務残高は約六六兆円に達すると見込まれ、極めて厳しい状況にあります。将来の世代の負担を考えると、財政構造の改革を進めていく必要があります。

合併後の規模

平成12年国勢調査人口	69,996 人
面積	585.57 km ²

将来人口推計

年	人口	老年人口比率
H7年(実績)	72,719人	22.4%
H17年(推計)	67,177人	27.7
H27年(推計)	59,733人	31.7
H37年(推計)	51,650人	35.2

産業構造 (H7国勢調査)

第2・3次産業人口比	86 %
------------	------

市町村行政の広域化には、「一部事務組合」や「広域連合」などの制度を活用して事務の共同処理を図る方法があります。しかし、消防やごみ処理といった特定分野に限られるため、総合的な行政の展開が困難であったり、各市町村の利害が複雑に絡み、構成市町村間の連絡・調整などに時間と労力を要し、迅速・的確な意志決定を行ったりすることができません。また、住民と行政との距離が遠くなり、

広域行政制度の限界

本県の市町村の財政状況も一段と厳しくなってきたおり、財政の硬直化は年々悪化する傾向にあり、社会情勢の変化に対応した柔軟な施策の展開が困難となっています。

責任の所在が不明確になりがちです。財政力が弱く小規模な市町村が多い新潟県で、これらの課題に対

応していくためには、個々の市町村が行政財政改革に努めることだけでは限界があります。

(次ページへ)

都市高度拡大型 (人口5～10万人程度)

圏域又はサブ圏域の核である市と周辺の市町村とが合併することにより、地域の連帯を深め、行政の一層の高度化、都市イメージの向上、地域経済の活性化を図ることを目指す地域。

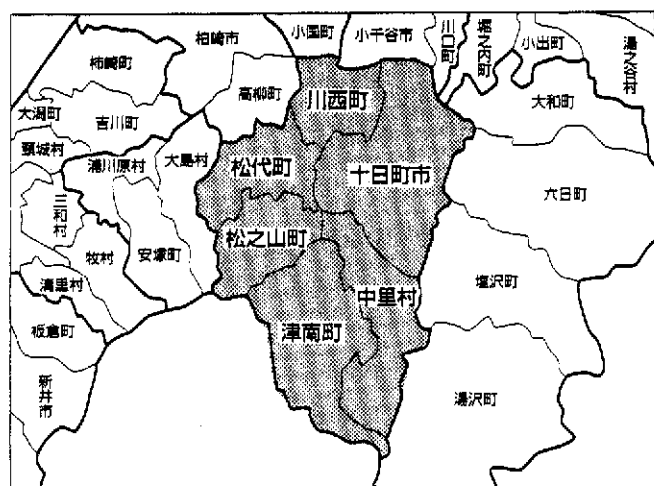
類型	③都市高度拡大型	歳出計(H11決算における単純計)	36,807 百万円
まちづくりの方向性	○都市の規模拡大に伴うイメージアップにより新たな産業の創出、絹織物に代表される地域産業の活性化を行い、若者に魅力のある就業の場を確保する。 ○「大地の芸術祭」の取り組みに見られたアート、里山の自然によって創られる新しい圏域イメージの発信に努めるなど若者を中心とした交流人口の増加を図る。 ○高原リゾート地域としての共通の地域特性を活かし、観光ルートの開発、一体的整備・PRを行い地域の活性化を図る。		
地域の一体性	○通勤・通学、通院、買い物など住民の日常社会生活圏は、十日町市を中心に形成されている。 ○行政については、消防、総合福祉センターなどを共同処理している。		
合併後の地域の役割	○十日町エリア：日常社会生活圏の中心として都市的機能の充実を行い、情報発信基地としてリゾートと連携した産業活動の推進を行う。 ○川西エリア：良質米の生産供給基地としての役割を担う。 ○中里、津南エリア：高原リゾート地区として一体的整備を進めるとともに、農業振興の核として一体的生産システムの確立やリゾートと提携した新たな農産物の開発、育成を行う。		
財政的效果	○経常経費：●人件費△1,030百万円 ※職員数△192人(現在752→類似団体560) ●議員報酬△137百万円 ※議員数△50人(現在80→合併後30) ●施設を効率的に配置した場合の維持管理費の減 など ○政策経費：広域的観点からのバランスのとれた効果的投資による効率化 ○これら節減経費を行政サービスの維持・向上に振り向け、国・県の財政支援により新たなまちづくり、地域振興策の充実を図ることも可能。		
課題・対応	〈課題〉・産業の活性化。 ・人口の減少(国調人口H7→H12△3.7%)、高齢化(国調老年人口比率S60→H7:15%→22.4%)への対応。 〈対応〉・リゾート地域としての一体的整備・PR及び都市の規模拡大に伴うイメージアップによる新たな産業の創出、雇用機会の拡大。 ・広域的福祉施策、福祉スタッフの充実。		

市町村合併

合併後の主な財政支援	国	合併特例債	まちづくり建設事業 借入限度額	258.8 億円
			振興基金造成 借入限度額	25.7 億円
		合併市町村補助金（3 か年計）		4.8 億円
		合併直後の臨時的経費に対する普通交付税措置（5 か年計）		6.7 億円
		合併市町村に対する包括的な特別交付税措置（3 か年計）		6.3 億円
	県	合併特別交付金		15.0 億円
		地域づくり資金貸付（まちづくり建設事業・基金計）		14.9 億円
		総 計		332.2 億円

要綱で提案された合併パターンは、県内を二十一圏域（市町村数一一一）として策定されたもので、当町を含む十日町圏域として

6市町村を構成市町村とするパターン2



合併後の規模

平成12年国勢調査人口	77,421 人
面積	762.35 km ²

将来人口推計

年	人口	老年人口比率
H7年（実績）	80,827人	23.4%
H17年（推計）	73,551人	29.0
H27年（推計）	64,379人	32.6
H37年（推計）	54,904人	36.0

産業構造（H7国勢調査）

第2・3次産業人口比	89 %
------------	------

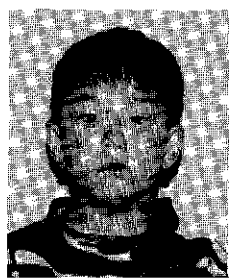
は四市町村（十日町市・川西町・中里村・津南町）というパターンと、六市町村（十日町市・川西町・中里村・津南町・松代町・松之

山町）という二パターンが示されました。合併は行政だけの問題ではありません。町と周辺地域の将来のあり

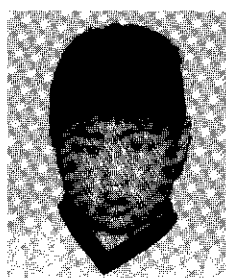
り方にもかかわる重要な問題であることから、住民の皆さんと十分な議論のもとで決定される必要があります。住民の皆さん自らの間

題として、ともに考え協議していきましょう。

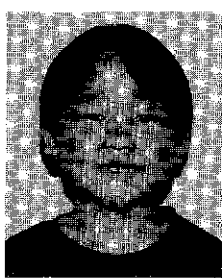
類 型	③都市高度拡大型	歳出計(H11決算における単純計)	44,367 百万円	
当該パターンの考え方	当該地域の日常生活圏及び行政の一体性については、以下のとおりであり、日常生活圏を重視した場合、当該6市町村の組み合わせも考えられる。 ○通勤・通学、通院、買い物などの日常生活圏は、十日町市を中心に形成。 ○行政については、ごみ・し尿処理、火葬場を「十日町市、川西町、松代町」及び「中里村、津南町、松之山町」でそれぞれ共同処理している。 なお、まちづくりの方向性、課題等は省略。			
財政的効果	○経常経費：●人件費△1,636百万円 ※職員数△305人（現在923→類似団体618） ●議員報酬△215百万円 ※議員数△80人（現在110→合併後30） ●施設を効率的に配置した場合の維持管理費の減 など ○政策経費：広域的観点からのバランスのとれた効果的投資による効率化 ○これら節減経費を行政サービスの維持・向上に振り向け、国・県の財政支援により新たなまちづくり、地域振興策の充実を図ることも可能。			
合併後の主な財政支援	国	合併特例債	まちづくり建設事業 借入限度額	336.6 億円
			振興基金造成 借入限度額	36.1 億円
		合併市町村補助金（3か年計）		6.0 億円
		合併直後の臨時的経費に対する普通交付税措置（5か年計）		9.7 億円
		合併市町村に対する包括的な特別交付税措置（3か年計）		8.1 億円
	県	合併特別交付金		23.3 億円
		地域づくり資金貸付（まちづくり建設事業・基金計）		19.6 億円
	総 計		439.4 億円	



① 柄 沢 達 也
② 沖立
③ 好浩



① 白 井 凌
② 寺尾
③ 義尊



① 小 川 雅 史
② 栄町
③ 靖之



① 畑 中 沙 桜 里
② 栄町
③ 宣宏



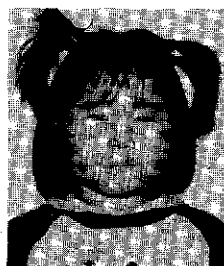
① 清 水 玲 人
② 寺尾
③ 和人



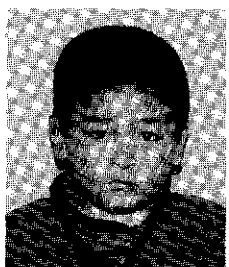
① 登 坂 新 之 介
② 中島町
③ 弘喜



① 高 橋 夏 歌
② 発電所通り東
③ 一義



① 小 林 結 花
② 中屋敷
③ 真樹



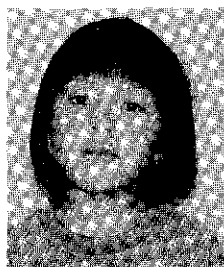
① 大 島 広 也
② 沖立
③ 伸一



① 南 雲 裕 平
② 中屋敷
③ 守啓



① 星 名 葉 月
② 沖立
③ 育男



① 春 日 彩 香
② 中島町
③ 一生



① 北 野 莉 絵
② 発電所通り東
③ 公夫



① 数 藤 明 菜
② 沖立
③ 清智



① 星 名 裕 二
② 伊友
③ 和弘



① 引 間 春 菜
② 高原田
③ 寿浩



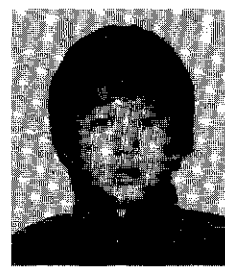
① 蔵 品 紗 月
② 霜条
③ 廣行



① 米 山 彩
② 南台
③ 増男



① 山 家 文 華
② 南台
③ 文良



① 小 林 和 真
② 栄町
③ 隆一



① 星 名 大 夢
② 伊友
③ 正



① 櫃 間 瑠 菜
② 伊友
③ 茂佳



① 渡 辺 真 央
② 高原田
③ 一広



① 中 條 美 華
② 木島
③ 充



① 小 掘 千 里
② 霜条
③ 良和



① 黒 嶋 香 純
② 高原田
③ 正巳

千手小学校
38人



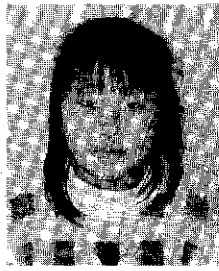
4月5日、町内の各小学校で、入学式が実施されました。今年の1年生は、4校合わせて76人（男子34人、女子42人）です。各小学校の1年生を紹介します。敬称略・順不同①氏名②住所③保護者名



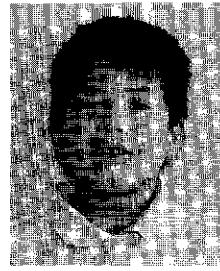
① 佐藤綾音
② 高原田
③ 勤一



① 春日梨里
② 伊友
③ 和久



① 渡辺美央
② 鶴吉
③ 正彦



① 星名俊昌
② 伊友
③ 藤一



① 阿部強志
② 木島
③ 謙一



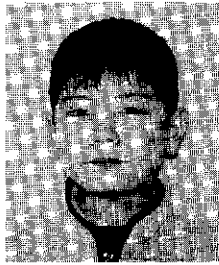
① 羽鳥千明
② 伊友
③ 秀之



① 小林誠一朗
② 中島町
③ 俊久



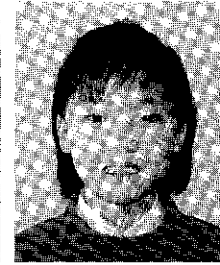
① 田辺沙季
② 南台
③ 克之



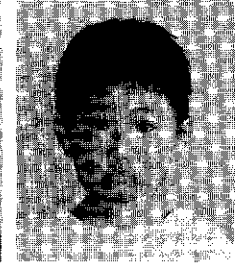
① 金井廉
② 沖立
③ 幸治



① 柳智秋
② 学校町
③ 十四男



① 丸山美佳
② 東善寺
③ 芳弘



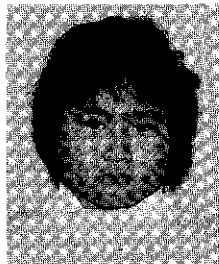
① 星名駿
② 伊友
③ 正人



① 丸山菜帆
② 根深
③ 義幸



① 江口千織
② 小白倉
③ 忠一



① 滋野萌
② 野口
③ 大介



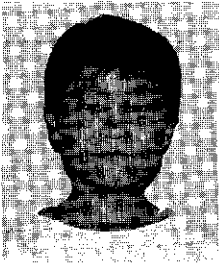
① 丸山奈都子
② 根深
③ 浩一



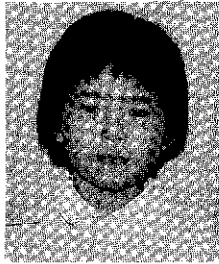
① 江口志織
② 小白倉
③ 美晴



① 平本隼
② 仁田
③ 正明



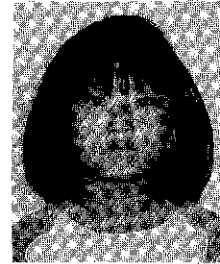
① 野沢誠
② 野口
③ 浩平



① 田中麻紀子
② 小白倉
③ 健一



① 大久保美咲
② 野口
③ 重保



① 小幡瞳
② 木落
③ 正人



① 滋野葵
② 野口
③ 健一



① 丸山友利亜
② 野口
③ 学



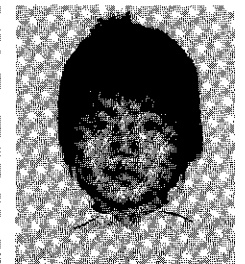
① 五十嵐結衣
② 野口
③ 義典



① 村越拓海
② 野口
③ 嘉貴



① 佐藤明日夏
② 仁田
③ 利浩

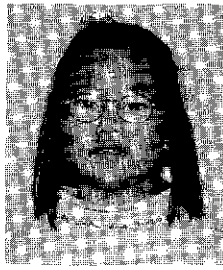


① 田口邦衛
② 木落
③ 隆治

橘小学校
19人



① 齋藤 佑樹
② 仁田
③ 弘



① 高橋 幸
② 下平新田
③ 由生



① 川崎 龍
② 元町
③ 克夫

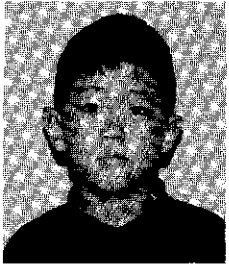


① 和久井 幸奈
② 木落
③ 光之

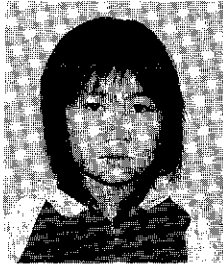


① 高橋 哲郎
② 仁田
③ 透

上野小学校
13人



① 押木 翼
② 元町
③ 正



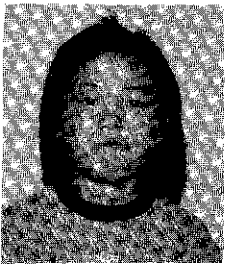
① 上村 祥子
② 下平新田
③ 直樹



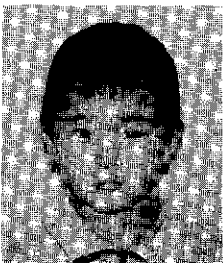
① 入沢 祥
② 上野
③ 昇



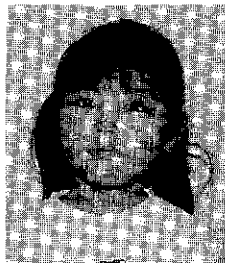
① 江口 拓也
② 小白倉
③ 正志



① 清水 綾
② 下平新田
③ さとみ



① 綿貫 富博
② 新町新田
③ 健二



① 水品 千晶
② 新町新田
③ 成良



① 星名 来紀
② 元町
③ 一郎



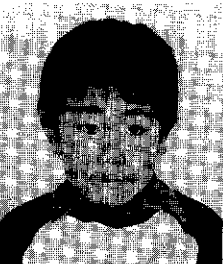
① 小柳 美紅
② 元町
③ 稔



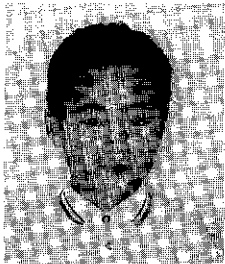
① 井川 樹
② 新町新田
③ 貴光



① 高橋 祥平
② 中仙田
③ 久也

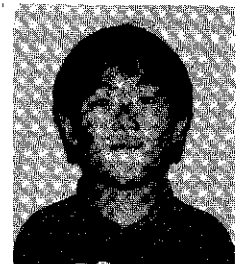


① 小林 文也
② 中仙田
③ 三雄



① 小林 元氣
② 中仙田
③ 勝茂

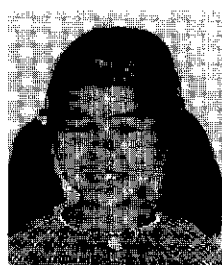
仙田小学校
6人



① 押木 颯馬
② 元町
③ 美代治

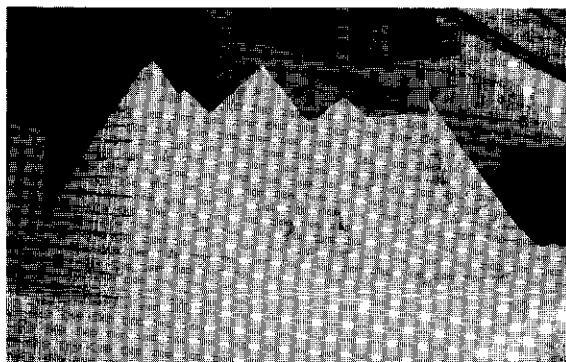


① 登坂 雅俊
② 岩瀬
③ 一夫

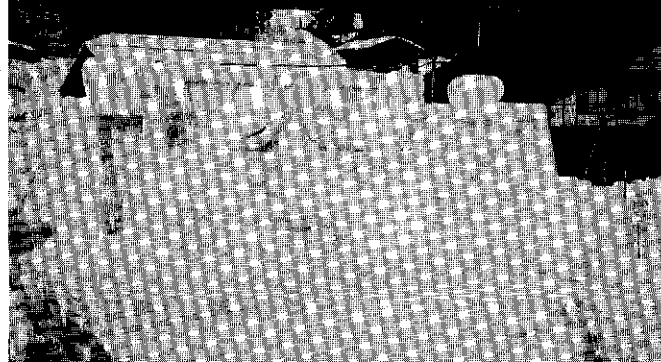


① 長谷川 みなみ
② 赤谷
③ 東





▲雪像コンテストで特別賞となった
あかね園職員互助会の「ギザの幻想」



▲雪像コンテストで最優秀賞に輝いた
熊野神社神輿会の「お母さん、春はまだ？」



▲橘小学校3年生による「かべぬりおけさ」
誰かわかるかな？



▲スノーミレニアム&ダンス甲子園には、観客がいっぱい



▲小学生によるダンス甲子園では、お気に入りの曲に衣裳もパッチリきめてみんなノリノリ

新しい千手温泉は、どんな建物？

工事現場からの報告 No.1

新しい温泉の工事を、現在の千手温泉に隣接する場所で行っています。今回から7回のシリーズで、工事の様子や方法などについてお知らせいたします。

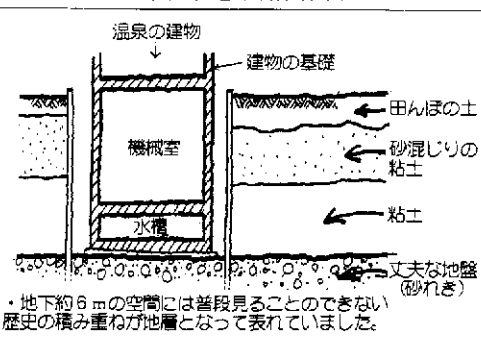
地下5メートルまでは粘土 その下に丈夫な地盤

新しい温泉工事は、雪が降り続ける2月下旬、現場内に仮設道路を作る作業と、除雪作業からスタートしました。現在は、地下に設ける機械室と基礎工事の作業を進めています。

基礎工事は、これから建物を建築するうえで重要な工事の一つとなります。安定した建物を建てるためには、まず足元をしっかりと固定しなければなりません。

新しい温泉建設地の地層は、地下約5メートルまでは田んぼの土、砂混じりの粘土、粘土の層となつていきます。

図〈地下断面図〉



ています。その下に砂れき層の丈夫な地盤が表われました。この地盤に建物の基礎を固定するために、大きく分けて二つの方法で工事を進めています。

その一つは、丈夫な地盤に直接基礎を設けること。もう一つは頭部に羽根のついた杭を、振動のほとんど出ないように回転させながら地盤に届かせる方法です。

現場から出た粘土は、青緑色のネトリリした土でした。町内で陶芸をされている方に、その粘土を見ていただきました。ひよっとすると、千手温泉の地下から目覚めた土で、新しい焼き物が誕生するかもしれません。

工事期間中、現場周辺にお住まいの方々にはいろいろの面でご迷惑をお掛けいたしますが、振動、騒音、大型車両の出入りなどについて細心の注意を払って工事を進めますので、ご理解ご協力をお願いいたします。





楽しいコスチュームと息の合ったダンスで盛りあがった10人11脚レース。子供の部出場のロケットボーイズガール（右上）と大人の部ブービー賞の中仙田百円会ウルトラマンハンドレッズ（右下）、優勝のオッハーだんごママ（左上）、仮装大賞のらりほーらりほー（左下）



▲今回初登場のミニSL試乗会
みんなを乗せて『シュッポ シュッポ』



▲お休み処でちょっといっぶく…



▲川西町アマチュア無線クラブの皆さん

生涯学習だより①

「生涯学習コーナーを設けました」

教育委員会では、生涯学習情報紙として「生涯学習だより」を発行してきましたが、新年度から「広報かわにし」の中にコーナーを設け、お知らせしていきたいと考えています。

生涯学習情報の提供は、行政が学習機会を提供し受講者を募集するという方法が中心になっていました。しかし、このコーナーではそれだけではなく、地域住民の実施する事業も含めた情報提供や、住民が参加できる紙面にしていくことを考えています。具体的には、講座、講演会、スポーツなど学習機会に関する情報や、学習団体・サークルの活動紹介、講師・指導者などの指導内容に関する情報提供を行っていきたいと思います。

特に地域住民や学習団体・サークルが行う事業については積極的に紹介していきたいと考えています。この生涯学習だよりが皆様の生



涯学習の推進役になるよう、ご意見・ご要望をいただければ幸いです。

「野口伝統芸能」が
町無形文化財に指定

野口の獅子舞、剣の舞、壁塗りおけさが、去る三月十六日の定例教育委員会において、町無形文化財に指定されました。

地域の人たちによって伝承されてきた多くの郷土芸能が、後継者不足により失なわれている中で若い後継者が育ち積極的に活動しています。

今回町の指定を受けたことにより、末永い保存と伝承活動が期待されています。



▶後継者によって復活した「剣の舞」

まちづくり活動支援事業募集中

町では、町内のまちづくり団体（集落、青年団、女性団体、老人クラブ、PTA、ボランティア組織などの5人以上のグループで、営利や政治・宗教活動を目的としていないもの）が、それぞれの地域の特性や資源を生かして自主的に行うまちづくり活動に対して、その活動の一部を補助して支援する『まちづくり活動支援事業』を実施しています。



ナカゴ“小春日”コンサートから

どんな活動が支援の対象になるの？

まちづくりの団体が自主的に行う先進的、創造的なまちづくり活動で、おおむね次のような活動を対象とします。

- ① まちづくりに関する意識啓発活動（講演会、研修会、シンポジウム、計画策定）
- ② 地域間交流活動（地域内外や都市との交流、国際交流など）
- ③ 地域活性化イベント（演劇、コンサート、伝統芸能伝承活動、物産展など）
- ④ 景観・環境づくり（花の植栽、広場整備、リサイクル、環境施設整備など）
- ⑤ その他活動（地域再発見・価値づくり、ボランティア、情報発信活動）

◎補助率＝補助対象経費から他の補助を除いた額の60％以内

◎補助対象経費＝上限50万円、下限5万円。ただし、申請件数が多い場合は、予算の範囲内で補助金額を調整することがあります。

※詳しくは、開発課地域政策係までお問い合わせください。（TEL68-3111 <内線311・312>）

平成12年度まちづくり活動支援事業実績一覧表

申請団体	事業名・場所	事業の概要	事業費内訳（円）
熊野社神輿会 代表 山口 康司	《事業名》 故郷創世フラワーロード事業（北沢橋付近植栽事業） 《場所》 仁田地内 北沢橋付近県道空き地	《内容》 北沢橋付近の県道空き地に一年生草花を植栽する。 ・北沢橋消雪井戸付近県道空き地97㎡ ・北沢橋新規取付道路より橋までの県道空き地10㎡ に植栽する。	町補助金 80,000 事業費 141,567
仁田集落 代表 春日 昇	《事業名》 芸能祭用舞台新築工事 《場所》 仁田 熊野社	《内容》 カラオケや盆おどりといった行事を今までは公民館で行っていたが、これからは舞台でやっていきたいという希望で、神社境内の一角に恒久舞台を新築する。	町補助金 500,000 事業費 3,514,350
野口郷土芸能保存会 代表 野沢 六郎	《事業名》 野口郷土芸能保存会 《場所》 野口諏訪神社境内 仁田熊野神社境内	《内容》 若者後継者の育成をしながら伝統芸能の理解活動に努め、交流と親交を広げていく。 10演目の習得、会員の増を目指し、毎週木曜日を定例練習日としている。	町補助金 301,000 事業費 502,991
ナカゴ小春日コンサート実行委員会 代表 川西町コンサート協会 会長 高橋博	《事業名》 ナカゴ“小春日”コンサート 《場所》 ナカゴグリーンパーク サンパレスナカゴ	《内容》 チェロ&ピアノデュオコンサートの開催 出演：ライナー・ギンツェル（チェロ） 片桐寿代（ピアノ） 曲目：バッハ没後250年を記念した内容 音楽施設としてのサンパレスナカゴの優れた特性をPRする。	町補助金 210,000 事業費 591,269
総事業費	4,750,177 円	総補助金額	1,091,000 円

※ 平成13年度は、「花と緑の千年物語」と題し、「花のアートコンクール」「花のアートフェスタ」を開催することから「集落やグループで進める花づくり」に積極的な助成をいたします。「花のアートコンクール」に応募することを前提として、花づくり活動を始める団体や、今まで活動してきた団体であっても新しい花づくり活動（プランターや花壇を利用し、花のアートを作成するなど）に取り組む団体であれば助成いたします。

■ 補助率＝補助対象経費から他の補助を除いた額の60％以内

■ 補助対象経費＝上限を20万円としますが、申請件数多数の場合は予算の範囲内で調整することがあります。

—新世紀かわにし創造事業— 21世紀・町誕生45周年記念事業の紹介

21世紀の幕開けにふさわしい記念事業として「川西町の新しいイメージづくり、次代を拓くひとづくり、輝いて生きるまちづくり」のため、平成13年度に下記事業を予定しています。

① NHK「ひるの散歩道」公開番組

- NHK新潟放送局ラジオ第1放送「ひるの散歩道」の公開録音を川西町において実施し、併せて全国に川西町を情報発信します。

日	時	4月27日(金)
会	場	川西町総合体育館
入	場	無料
申込方法	官製往復はがきに「郵便番号」「住所」「氏名」「電話番号」を明記していただき、「川西町役場開発課内「ひるの散歩道」係」までお申し込みください。	
締め切り	4月13日(金) 必着	

- ※ 入場ご希望の方は、締め切り間近ですのでお急ぎでお申し込みください。
- ※ 詳しくは、お知らせ版3月20日号、または4月1日配布のチラシをご覧ください。

② 越後妻有天神ばやしワールド

- 新世紀へ伝統文化を継承するために、妻有地方で語り継がれる「天神ばやし」の自慢大会を開催します。

日	時	8月4日(土)
会	場	ナカゴグリーンパーク芝生広場
内	容	各地に伝承し、地域ごとに特徴がある「天神ばやし」の競演を伝承地域(十日町市、川西町、津南町、中里村、松代町、小千谷市)等との連携により開催します。また、地域の特産品や参加者の飲食のため屋台村を設置し、真夏の夜のお祭り感覚で楽しめる内容を考えています。



▶8月5日、ナカゴグリーンパーク
◀で開催された「大地の宴」から



③ 町のシンボルマークづくり事業

- 川西町には、町章はありますが親しみのあるシンボルマークがありません。そこで、21世紀の到来と町誕生45周年を記念して、町のシンボルマークをつくり幅広く活用します。

④ 花と緑の千年物語

- 「町中を花でいっぱい！」「緑できれいなまちづくりを！」そんな想いを込めて平成13年度に「花と緑のまちづくり」に着手します。

イ ベ ント	開催時期	開 催 会 場
花のアート講習会(全3回)	3月～6月	第1、2回川西町活性化センター 第3回 未定
千年の森プロジェクト	6月上旬	仙田体験交流館 道の駅「瀬替えの郷せんだ」
花のアートコンクール	7月上旬～中旬	川西町全域
花のアートフェスタ	7月15日(日)	仙田体験交流館 道の駅「瀬替えの郷せんだ」

※詳しくは、広報かわにし No. 511 (3月10日発行)、または3月20日配布のチラシをご覧ください。

◆21世紀・町誕生45周年記念事業の詳しい内容については、お気軽に開発課地域政策係までお問い合わせください。
TEL 68-3111 (内線 311・312)

第5次川西町総合開発計画 (後期基本計画)を答申!

去る1月10日付けで諮問した第5次川西町総合開発計画(後期基本計画)の策定について、2月28日、町総合開発計画審議会(須藤憲二会長)から答申されました。この答申は、平成8年に編成した10年間の基本構想を見直すとともに、13年度から今後5年間における施策の後期基本計画を示したものです。

後期基本計画の策定要点

- 1 循環型社会への対応
- ・循環型を基調とした農業や環境への施策
- 2 少子高齢化、国際化、情報化への対応
- ・生涯教育、学校教育、福祉、医療、農業などの多分野への施策
- ・介護保険制度の導入による新たな取り組み



田口町長(左)に答申書を手渡す
須藤会長

3 地方分権の推進

- ・自主的、自立的、戦略的な行政運営と簡素・効率化の推進
- ・住民の参加と情報の公開、人事管理、組織機構の改革
- 4 社会動向、多様化する住民のニーズへの対応
- ・広域での事務事業の連携と強化
- ・共同処理や役割分担、相互交流などの広域行政の推進
- ・市町村合併の十分な調査・研究と住民への情報提供
- ・などに視点を置いて策定されています。

この運用においては、急速に変化している社会情勢を的確に見据え、町民の皆さんの深いご理解とご協力をいただき、行政と一体となつて知恵を出し合い、痛みを分かち合い、合意形成を図りながらじっくりと取り組んでまいります。また、町民の皆様の声を反映しながら計画を推進することで、世紀を迎え元気な川西町が築かれるものと期待されます。

なお、この計画の細部につきましては、後日、ご家族向けのダイジェスト版を作成し、各世帯に配布したいと考えておりますので、計画推進に向け、皆様の一層のご理解とご協力をお願いいたします。

町臨時行財政調査会が 第4次川西町行政改革大綱を答申

平成13年2月21日付けで町臨時行財政調査会(押木貢会長・委員5人)に諮問していた町の行政改



根津収入役(左)に答申書
を手渡す押木会長

革大綱について、3月7日、その答申がありました。

行革大綱は、町が21世紀の諸課題に的確に対応できる行政システムに転換することを目指して、町民と行政の役割分担や行政組織などに関する基本方針を定めるとともに、今後5年間(平成13年度、17年度)に取り組むべき「措置事項」を取りまとめています。

町では昭和57年、60年、平成7年と3次にわたり行政改革大綱を策定しており、今回が第4次となります。また、今回の答申をまとめるに当たっては、次の6項目に重点が置かれています。

1 住民自治の確立に向けた行政運

営

- 2 行政評価システムの確立
- 3 事務のOA化とIT(情報技術)の推進
- 4 時代に対応した組織機構の見直しと定員管理の適正化
- 5 広域行政の推進と市町村合併の調査、研究、議論
- 6 公共施設などの計画的なバリアフリー化の推進

この大綱で示された今後取り組むべき「当面の措置事項」については、5月号以降の本紙で詳しくお知らせします。

清水さん(高原田)が消防功労者表彰を受賞



三月八日、東京虎ノ門ニッショーホールで、平成十二年度消防功労者消防長官表彰式が実施され、席上、当町消防団長の清水善三さん(60歳)が功労者表彰を受賞しました。

清水さんは、昭和二十九年五月に千手町消防団に入団、以来、班長・部長・副分団長・

分団長・副団長を経て、平成五年四月から団長に就任。現在まで四十七年間もの長きにわたり消防団活動に精励されています。

なお、清水さんは、今年四月から十日町地区支会長として就任されており、さらなる活躍が期待されています。

川西町長選挙②

岩瀬 金子 幸 作

実績か、新風か

実績を示して、積極的な町政を展開する構えを見せる南雲氏。これに対し、「新しい風を吹かせて

川西町の流れを変えよう」と訴える押木氏。両候補のうち、だれが町長の座を射止めるのか。前号に続き、十日町新聞（平成三年六月十日号）の記事を次に掲げる。

四月までは組織力の現職陣営がリードを保っていたが、五月に入

って徐々にムードが変わり、新人陣営の追い上げが目立ち始めた。告示を前の現段階では、地域別に見ると、最大票田で現職の地元千手地区はやはり、南雲氏が優勢。ただ、十日町市寄りの地区や山の根地区では新人陣営がかなり食い込んでおり、現職陣営は本当の地元の県道沿いや沖立地区などの地固めに力を入れている。

反対に、押木氏の地元の上野地区は非常に結束が強いが、川辺地区に現職陣営の橋頭堡があり、最終盤にこれが広がるかどうか。両陣営が、最も接近していて票読みがしにくいのが橋地区と仙田地区。橋地区は、現職陣営の幹部がいる仁田地区の行方が大きい。仙田地

区は、中心部の中仙田で現職陣営がわずかにリードしているが、周辺地区の雰囲気が変わりつつあり、混戦もようとなっている。

決り集会などから見た世代別・男女別の浸透度は、老若男女まんべんなく浸透しているのが南雲氏で、青壮年男性を中心に浸透しているのが押木氏。都市型の選挙と異なり、比較的浮動票が少ない同町有権者の中で、こうした浸透の仕方の違いがどう出てくるのか、注目される。

初代の町長選挙は、前・現千手町長と仙田の斎木名賀吉の三氏で戦い、中村壮吉氏が初代町長へ。投票率は九一・二六％。二回目は三十九年九月一日、中村壮吉と登坂久平の二氏が争い、中村氏が三選。投票率は八六・七一％だった。三度目が四十二年十月の前議長小林伝司、退職議長だった南雲章、そして前収入役の根津正三氏の三すくみの選挙戦で、根津氏が初当選を飾った。この時、町長選挙では最高の九六・二六％を記録。

追う人と固める人

激突ムードが最高潮に達した投票日前日の動きを、十日町新聞

平成3年当時の新聞の写し



（平成三年六月十五日号）が「微差の接戦を展開した」と題して次のように報じている。

内外から注目される川西町長選挙は、予想どおり新人で前議長の押木元男氏（五三）と現職町長の南雲春雄氏（六四）の二人が立候補し、あす六日の投票日を目前に最後の熱戦を繰り広げている。日に日に有権者の関心も高まり、町議会補欠選挙も同時にスタートしているため、同町は選挙一色。中盤から追い上げている押木候補陣営は押せ押せムードを盛り上げ、告示直前から組織がフル回転し始めた南雲候補陣営は攻勢に転じている。両陣営とも、「勝つても三ヶ月前半」と接戦の見方は共通し、熱気と激突ムードはきょう十五日に最高潮に達しそうだ。

町長選挙と同時に、十一日に締め切られた町議会議員補欠選挙（定員一人）は、当初は無投票と思われていたが、押木貢（四八）、金子澄男（五四）、戸田専治（七六）の無所属一元職、二新人が立候補して激しい選挙戦となっている。

微差の接戦か

十一日に告示された町長選挙は押木元男氏、南雲春雄氏の順で届け出をすませ、運動員がタスキ、街頭宣伝車証などの七つ道具を選挙管理委員会から受け取り、選挙戦の火ぶたが切つて落とされた。

押木元男候補は、役場前で約三百人の支持者を集めて、「きょうこの瞬間に、川西町がよみがえることを確信した。町長選の無投票は良くないし、町の現況も是認できない。みなさんとともに新しい川西町を築きたい」と第一声。この後地元の上野諏訪神社に回り、支持者とともに必勝を祈願した。南雲春雄候補は、選挙タスキを右肩にかけた後、町総合センター前で第一声。三百人を超える支持者を前に、「町民一人一人が尊敬される町作りを進めたい。五日の間に全身全霊を込めて訴えたい」と氣勢を上げた。同候補は当選ダルマに片目を入れて鏡割りをし、支持者とともに街頭に出発した。本番に入り、両陣営とも形容の

欄筆のことば

新年度を機会に、この欄（歴史は語る）は本月号をもつてとじさせていただきます。広報とは発刊以来の因縁があり、筆を置くには感慨無量の思いですが、三十余年もの長い間、意欲的に書かせていただけたのは、町民各位の励ましのおかげでした。ありがたく深く感謝いたしております。

歴代の編集長様を始め、ご支援、ご愛読くださいました皆様にご心からのお礼を申し上げ、川西町のさらなる発展を祈念してお別れのことばといたします。（筆者）

住民福祉課からのお知らせです

平成13年4月1日から次の事業の一部が改正されます。申請が必要な方はお早めに福祉係窓口までおいでください。

① 家族介護用品支給事業

〔対象者〕

◎介護認定を受けた方及び身体障害者手帳・療育手帳をお持ちの方で、在宅で介護が必要な方

〔助成対象用品〕

◎紙おむつ ◎尿とりパット

〔助成額〕

◎所得税非課税世帯…1か月6、200円を上限

◎所得税課税世帯…1か月3、100円を上限

ただし、どちらも1か月の購入額が上限に満たないときはその全額を助成します。

〔申請に必要なもの〕

◎印鑑 ◎振り込み先金融機関名と口座番号

◎身体障害者手帳または療育手帳（該当する方のみ）

② 福祉タクシー利用料助成事業

〔対象者〕

◎身体障害者手帳をお持ちの方で1級・2級の方（下肢・体幹障害者は3級まで）

◎療育手帳をお持ちの方でA判定の方

〔利用できるタクシー会社〕

◎昭和交通㈱ ◎十日町タクシー㈱ ◎明石交通㈱ ◎十日町交通㈱

〔助成額〕

◎タクシー1回の利用につき、利用料金の50%を助成（ただし、利用料金の50%相当額の金額が2、000円を超えるときは、2、000円を限度とします。）

〔助成回数〕

◎年間12回まで

〔申請に必要なもの〕

◎印鑑 ◎身体障害者手帳または療育手帳

※問い合わせ先

住民福祉課福祉係（☎68—3111（内線201））

犬の登録と狂犬病予防注射のお知らせ

◎期日 4月25日（水）

会 場	時 間
室島集落センター	午前 9:15 ～ 9:25
克雪センター	午前 9:40 ～ 10:00
小白倉集落センター	午前 10:20 ～ 10:30
高齢者コミュニティセンター	午前 11:00 ～ 11:30
上野コミュニティセンター	午後 1:10 ～ 1:50
総合センター	午後 2:10 ～ 3:10

※上記会場で受けられない方は、5月13日（日）に十日町市役所（午前9:30～11:30）で行いますので、忘れずに受けてください。

◎お持ちいただくもの

継続登録の方……通知はがき、印鑑
注射料金（3,100円）

新規登録……印鑑、登録及び注射料金（6,100円）

＜問い合わせ先＞

環境整備課環境衛生係 ☎68—3111（内線104）

5月4日は山菜まつりと楽楽市場

山の恵を味わう会として人気の高い「仙田山菜まつり」。山菜取り体験や山菜料理のフルコースのほか、楽楽市場も開きます。

詳しくは、同まつりのチラシをご覧ください。

◆期 日 5月4日（金）
◆参加費 1,500円（飲みもの別）
◆会 場 J A 十日町仙田支所広場特設会場

克雪住宅の融資制度や補助金制度をご利用ください！

町では、屋根の雪下ろし作業の解消と、安全で快適な克雪住宅を普及したいと、克雪住宅普及促進事業や克雪住宅資金貸付事業を実施しながら、低利な融資制度や有利な補助金制度を設けています。平成13年度分を受け付けますので、希望する方はお早めにお申し込みください。

★申し込み受け付け 5月1日～10月31日

★克雪住宅補助金最高限度額

融雪式 44万円 耐雪式 33万円

★克雪住宅融資制度 融資期間15年以内

○融雪式・耐雪式貸付限度額 600万円 年1.5%

○落雪式貸付限度額400万円 年2.0%（現行3.0%）

落雪式の貸付金利が引き下げられました。これは、緊急的な景気浮揚策として行われるもので、平成13年度～14年度分の貸付期間に限定されます。

※お申し込み・お問い合わせは、建設課都市計画係

（☎68—3111＜内線323＞）へ。

痴ほう介護者・家族の交流会

日ごろの対応の仕方や介護の工夫、息抜きの方法、家族の健康管理などを介護者・家族同士の交流で学び合いませんか。

日時 4月16日（月）午後1時30分～3時30分

会場 十日町保健センター 1階リハビリ室

内容 交流会（普段の介護の様子、介護の工夫など）

善

意

福祉に

(敬称略)

小林 秀治 (木島) 五万円
星名 信利 (霜条) 五万円
高橋 伸一 (坪山) 五万円
新保仁二郎 (四郎兼) 五万円

お世話になります
役場のニューフェイス

四月一日付けで事務職三人、保育士一人を採用しました。写真右から建設課飯わい空間推進係、入田太(十日町市)、住民福祉課千手保育園、北野久美(十日町市)、保健課介護保険係、田村典子(十日町市)、農林課振興係、柄沢大輔(沖立)です。よろしく願います。



かわい
俳壇

高崎正風選

農業のほかは知らざる花辛夷
山口英さんの死を悼む
生涯を雪の国にて逝きにけり
練馬区 須藤 遊人
陽炎のホームに下りる無人駅
春風やのどかに廻り大水車
大倉 中条 石平
きざはしに新薙敷き彼岸寺
目覚しを止めて春眠深まりぬ
上町 高橋 願似
近道も雪に阻まれ戻りけり
呼ぶ声のうつらうつらと春眠し
霜条 星名 星光
雪晴れてバスも定時に発ちにけり
余寒なほ続ける髪を切り惜しみ
元町 金子 鉄平
ふつくと春日布団に貫ひけり
家廻りの残雪つつく頃が好き
山野田 藤田ひろ志
輝きて水温む橋バスが行く
旅立つ子送るホームや風光る
小白倉 田中 優美
スイトピー飾りて友の退院す
咲きそめし庭の桜に帰心かな
綾瀬市 野沢ますえ

新潟の焼いも屋とて買いにけり
百姓の生れで今も昌を打つ
八王子市 松浦 サク
春曉の淡墨色にまどろみぬ
花吹雪硯の上に二三片
田中町 石澤 澄代

鳥雲旅の話に地図広げ
街路樹の芽ぶく柳に糸の雨
足立区 涌井ハル子
村中の迎へし嫁や大雪解
下萌ゆる社の杉の根元より
小白倉 江口みゆき

春彼岸写真を出して父母偲ぶ
学び舎を別れ行く子に名残り雪
霜条 蔵品ハツエ
冠雪の山も映して水温む
春灯下路味嗜む夕餉かな
新町新田 若山 向山

春の雨遠く山家の灯の見える
庭先に猫の爪とぐ日和りかな
元町 田畑 吉治
柳の芽日々にふくらみ子も太り
弟の忌の近づける月朧
野口 村越 由喜

樟脳の香に包まれて難眠る
三ツ程見付けて嬉し路のとう
岩瀬 登坂伊智子
旅立ちの無情の今日の別れ雪
花咲くを待たず逝く子の声をふと
四郎兼 新保 志恵

辛夷咲き雄木林も動き初む
空碧く目に染む白さ花辛夷
志木市 山田 徳治

休日救急医

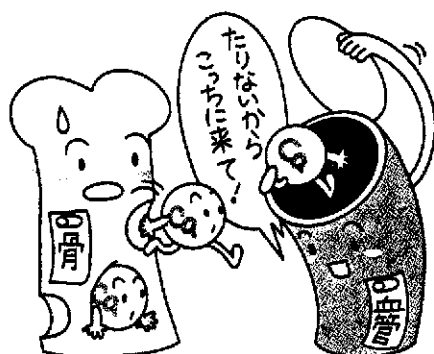
4月15日 第二藤巻医院(上野)
☎ 68-2018
4月22日 大坪医院(四日町)
☎ 57-6100
" 津南病院(津南町)
☎ 65-3161
4月29日 庭野医院(寿町)
☎ 52-2711
4月30日 たかき医院(土市)
☎ 58-2361
5月3日 池田医院(本町西)
☎ 52-2581
5月4日 大島医院(川原町)
☎ 52-2957
5月5日 山口医院(下条)
☎ 55-2003
5月6日 田中外科医院(田中町)
☎ 52-2403
" 中条病院(中条)
☎ 57-3018

骨粗しょう症について②

骨を丈夫にする食事(若い人向け)

食生活のポイントとは……なんといってもカルシウムです。日本人は豊かな食生活になったといわれます。しかし、いまだ栄養として不足し、所要量を満たしていないのがカルシウムです。カルシウムは、体重の15〜2%を占めているといわれ、そのほとんどは骨や歯に含まれています。血液中に含まれるカルシウムは一定の濃度を保つようになっています、血液のなかのカルシウムが不足すると、骨の成分から溶けだし動員されることとなります。この状態が長く続くと、骨粗しょう症となります。とくに女性には妊娠、出産を契機に、カルシウムの流出が起きやすいので、よりカルシウムをとる習慣を身につけておく必要があります。カルシウム不足を解消する食生活……一番目には、あたりまえの事ですすが摂取するカルシウムを増やすことです。自分の毎日の食事をチェックしてみても乳製品を1回もとっていない日があれば牛乳やヨーグルトを毎日必ずとること、そのほかチーズ、小魚、海そう、大豆製品なども加えてとるようにします。二番目には、せっかくなくさんといったカルシウムが体なかで有効利用されるように、魚肉

類卵、大豆製品などのたん白質と一緒にとることがあげられます。もう一つビタミンDも必要です。鮭、鯖、さんま、かつおなどの魚類干しいたけ、しめじ、きくらげなどのきのこ類に含まれるほか、日光に当たることでも合成されます。ダイエットは骨の大敵……ダイエットで食べる量を減らす事は、たん白質をとる量も少なくなり、カルシウムやミネラルも不足することになります。20歳代はカルシウムをたくさんとって最大骨量が高いレベルにしておくことが、骨粗しょう症を予防するために重要なことです。次回、骨粗しょう症を予防するための三大要素、食事、運動、日光にあたる事の、運動について



くらしとけんこ

戸籍の窓から

たかさごーご円満に

(南雲 利光 中仙田
水落 悦子 仁田
片桐 英恭 小白倉
相馬 早苗 木落
高橋 勉 田中町
高橋 望美 十日町市

昇天ーごめい福を祈る

柄沢 照和 70 (本人) 高原田
星名 一正 73 (信利) 霜条
南雲 貞吉 77 (本人) 寺尾
田口 タケ 85 (徳一) 木落
南雲 金蔵 85 (正夫) 中仙田
高橋 トモ 88 (勇) 中島町

表紙の写真

旧暦の二月十五日、釈迦の入滅(死)を追悼して行う法会(供養する行事、集会)を「涅槃会」といい、当妻有地域では、春を告げる「だんごまき」として親しまれています。室島の相国寺(星野正五住職)でも、ひと日遅れのだんごまきを三月十八日に実施。地域の内外から八十人ほどが本堂に集まり、星野住職からだんごまきの由来などの説明を聞いたあと、室島若衆の会(茂野敏行会長)によって一斉にまかれるだんごを真剣に拾い集めていました。

第15回かわにし雪まつり

かわにし商品券の利用期限迫る

標記商品券の利用期限は4月15日までです。当選された方は期限までにご利用ください。

また、商店の皆さんの換金期限は4月27日までとなっていますので、期限内に実行委員会事務局(役場開発課)へお持ちください。



中村 ミヨ 91 (年 広) 大白倉
高橋 キヨ 93 (登 六) 中仙田
うぶ声ーおすこやかに
樋口 望愛 敏 浩 上 野
小幡 亮太 君一 子久 木 落
丸田 春菜 はるな 宏 功 南 台
富井 駿介 しゅんけい 富士 史 上 野
星名 晃輔 こうすけ 千恵子 伊 友
川崎 友暉 ゆうき 義和 上 野
(3月1日ー31日 届け出分)

ちいさな展覧会

148

仙田小学校



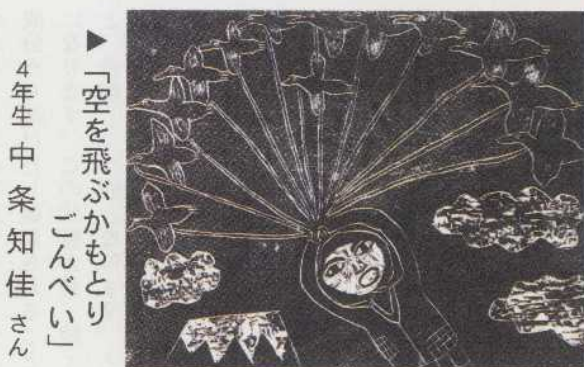
「ぼくと雪だるまの親子」
3年生 中条将志くん



「仙田は寒いが
エジプトは熱い」
5年生 押木翔太くん



「ザ・本だな」
6年生 高橋直一くん



「空を飛ぶかもとり
ごんべい」
4年生 中条知佳さん



「おさんぽしている
ふたり」
1年生 根津はるかさん



「ダンスをしているわたし」
2年生 登坂美咲さん

(5月号は川西中学校です)